

先日、久田先生から以下のようなメールをいただきました。

前回の講演会の内容の補足です。

黒瀬川帯を考える時の参考にしてください。

---

黒瀬川帯についてですが、若干齟齬があるようなので、お知らせしておきます。

まずは、今回のような五日市講演会のように、地質学に対してアマチュアの方（一般市民）からプロの方（藤岡換太郎さんさんのように）までの様々な関心度の違いがある方の前で、講演することの難しさを改めて思い知りました。それを意識してもちろん講演準備をしたつもりですが（結局は準備不足）、なかなかこちらの思い通りにはいかなかったのではないかと反省しています。

私の講演の黒瀬川帯の成因に関する部分の趣旨は以下ようになります。

私の黒瀬川帯のクリッペ説が提唱されて30年になりますが、その間に、日本列島の基本構造はナッペによってできたこと（下に新しく上に古い）、黒瀬川帯は蛇紋岩メランジェであること、蛇紋岩メランジェは伊豆－マリアナ海溝の前弧域で蛇紋岩ダイヤビルで形成されることが判明したことは私も納得しているところです。それはそれでいいのですが、私の疑問は、それでは黒瀬川帯は長門－飛騨外縁帯をハイマートしているのか、ということです。現在両地帯の距離は150 km以上あります。その距離にわたって蛇紋岩メランジェがつながり（現在は侵食されてなくなっている）、そもそもどのように形成されたのかということです。私は黒瀬川帯クリッペ説が提唱されて以来、その疑問を持ち続けてきましたが、未だそれに対する納得できる解答が見出せない状況だ、ということです。

私が調べてきた蛇紋岩起源の碎屑性クロムスピネルは、プレートが沈み込む限り生産されるのですが、どうもデボン紀以降、付加体の基盤、被覆岩の日本列島様々な地帯から産出します。この事実をどのように説明するかと考えた場合、横ずれがあればいいのでは、ということなのです。横ずれでは物質は持ち上げられないという議論がありますが、そんなことはありません。フラワー横ずれといって、持ち上げられる断層運動が世界の横ずれ地帯で知られています。伊豆－マリアナの蛇紋岩メランジェの形成はおそらく数十km以浅です。この深さなら、フラワー横ずれで持ち上げられるのではないかと考えています。

以上のように、黒瀬川帯クリッペ説に疑問を持ち続けているのです。

ここ10数年、黒瀬川帯問題から離れていましたが、今回の講演会を通じて少々勉強することができました。ありがとうございました。

久田

---

（青谷注釈）

ハイマート；生まれ故郷 黒瀬川帯の故郷は長門－飛騨外縁帯か、もともと長門－飛騨外縁帯とつながっていたのか、また蛇紋岩メランジェはどうやってできたのか

フラワー横ずれ；フラワー構造→横ずれに伴う主断層にともなって、分岐した高角な逆断層群によって上に開いた構造ができる

蛇紋岩メランジェは横ずれでももたらされるのではないか